

むろあじ類伊豆諸島周辺海域

評価対象種：クサヤモロ（伊豆諸島海域）



令和8年4月

資源の水準と動向「低位・横ばい」

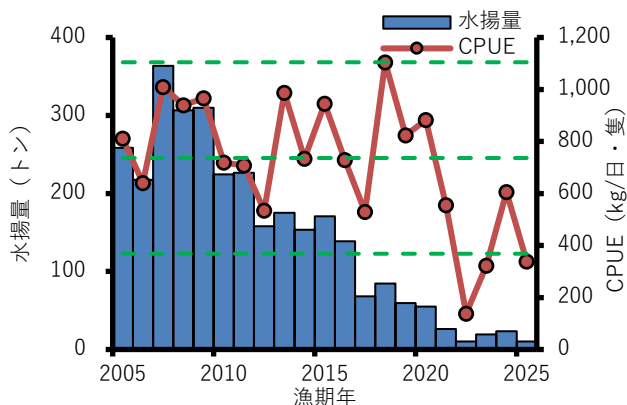


図1 水揚量とCPUEの推移

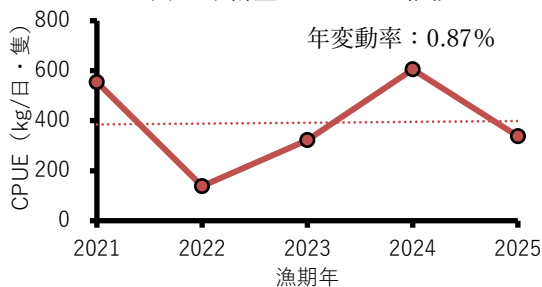


図2 棒受け網CPUEの年変動率

2005年以降の伊豆諸島海域におけるクサヤモロの水揚量は、2007年に最大値の364トンとなったがその後減少傾向を示し、2022年は10トンとなった(図1)。CPUE(棒受け網漁業1日1隻あたりの水揚量)は増減を繰り返し、直近5年間は138.1~605.3kg/日・隻で推移した(図1)。

本資源評価票での資源量指標値はCPUEとした。2025年における資源の水準は、資源量指標値としたCPUEが最大値となった2018年の1,104.8kg/日・隻の1/3未満である338.4kg/日・隻のため「低位」とした(図1)。

資源の動向は、直近5年間のCPUEから算出した年変動率が0.87%であり年間±5%以上の増減でないため「横ばい」とした(図2)。

生態学的特性(クサヤモロ)

- 分布・回遊：東京都において、伊豆諸島海域から小笠原諸島海域に広く分布するが、主に黒潮の影響が強い三宅島から青ヶ島の沿岸に生息する¹⁾。
- 年齢・成長：1歳で尾叉長18.5cm、2歳で24.9cm、3歳で29.7cm、最高齢は8歳と推定される²⁾。
- 成熟・産卵：東シナ海において、産卵期は4~7月、生物学的最小形は尾叉長25.8cmの2歳と推定される²⁾。
- 被捕食関係：胃中から仔魚やプランクトン類が確認されているが、詳細は不明である¹⁾。

東京都におけるクサヤモロ漁

- 漁業：棒受け網漁業(知事許可漁業)や定置網が営まれている。8~12月に操業する「八丈島周辺海域における棒受け網漁」では、魚価の下落を防止するため出荷可能量を勘案して1隻1日あたりの漁獲制限を実施している¹⁾。なお、近年は棒受け網漁業操業隻数が減少している。
- 漁法：棒受け網、定置網等により漁獲される。
- 管理：棒受け網漁業は、許可の制限措置の中で許可隻数が制限される。また、三宅島では定置網漁業で漁獲される本資源について東京都資源管理方針に基づく資源管理協定を策定し、自主的資源管理(禁漁期間の設定)に取り組んでいる。

- 1) [東京都水産試験場. 1984. 組織的調査研究活動推進事業報告書. 東京都水産試験場研究要報, 171: 1-51.](#)
- 2) Shiraishi, T., H. Tanaka, S. Ohshimo, H. Ishida and N. Morinaga. 2010. Age, growth and reproduction of two species of scad, *Decapterus macrosoma* and *D. macarellus* in the waters off southern Kyusyu. JARQ, 44(2): 197-206.